

令和5年度 第4回豊能町教育委員会会議（7月定例会）会議録

日 時： 令和5年7月27日（木） 午後1時30分開会

場 所： 豊能町役場 2階大会議室

出席者：	教育長	森田 雅彦
	教育委員	宮崎 純光
	教育委員	坂口 敏子
	教育委員	富永 彰一
	教育委員	馬渡 秀徳
	教育委員	小松 郁夫
事務局：	こども未来部長	仙波 英太郎
	教育総務課長	吉澤 亘
	義務教育課長	峯 亜希子
	生涯学習課長	千歳 あや乃
	教育総務課主事	横山 悟士

傍聴者： 4名

会議次第

○審議事項

第6号議案 令和6年度使用小学校および中学校教科用図書の採択について

○各課・室からの報告

【教育長】

それでは、会議を始めます。ただいまの出席委員は4名です。過半数に達しておりますのでただいまから、令和5年度第4回豊能町教育委員会会議7月定例会を開会いたします。会議録署名人を宮崎職務代理にお願いいたします。それでは議題に入ります。本日は、審議事項1件とさせていただきます。第6号議案「令和6年度使用小学校および中学校教科用図書の採択について」でございます。小学校教科用図書の採択にあたりましては児童が毎日使うものであり、子どもたちにとって使いやすい教科書、先生たちにとって教えやすい教科書を選んでいく必要があります。見本本として送付されています教科用図書につきましては全て文部科学省の検定を受けており、どの出版会社の教科書を選んでも問題はありますが、それぞれの教科用図書には特色があり、豊能郡の子どもたちにとってより相応しい教科書が必要だと考えます。そして今回は、学習指導要領全面改訂はなく部分改訂が行われております。また両町では小中一貫教育、9年間を繋ぐ教育に取り組んでおり、中学校との関連も頭に置いておかななくてはならないと思っております。それではこの内容につきまして令和6年度使用小学校教科用図書の採択につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

【義務教育課長】

第6号議案「令和6年度使用小学校および中学校教科用図書の採択について」提案をさせていただきます。今回の小学校教科用図書の採択にあたりましては5月の初めより調査員を選出して、調査研究委員会を設置し、豊能町・能勢町の両町の事務局も入り時間をかけて丁寧に調査・研究を進め、調査報告書を7月3日に提出いただきました。また、豊能郡地区教科用図書採択協議会には能勢町・豊能町の校長会代表、保護者代表の方にも入っていただき検討をしていただきました。教育委員の皆さまにも5月下旬より見本本を巡回させていただき、7月13日には教育委員の皆さまの学習会・意見交換会を開催させていただいたところです。ありがとうございます。簡単ではありますが、これまでの採択の経過についてご報告させていただきます。それでは、第6号議案「令和6年度使用小学校および中学校教科用図書の採択について」をご覧ください。提案理由といたしましては、令和6年度に使用する小学校教科用図書および中学校教科用図書について別紙選定理由書により豊能郡地区における令和6年度に使用する小学校（義務教育学校前期課程）教科用図書の採択についての答申、および豊能郡地区における令和3年度に使用する中学校教科用図書の採択についての答申を受け、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律の第14条により採択するものであります。それでは、まず小学校教科用図書の採択につきまして、種目ごとに選定理由を含めてご説明させていただきご審議をお願いいたします。まず初めに国語についてです。国語は3社ございまして推薦として挙げてきたものが東京書籍と光村図書でございました。そのあと、採択協議会で協議をし、国語は光村図書を答申として挙げさせていただきます。選定理由書の2ページをご覧ください。選定理由としましては物語文や説明文の冒頭に単元のめあてが示されており、教材文のあとには、「とらえよう・深めよう・まとめよう・広げよう」があり、見通しをもって学習を進められること。教師にとっては指導の要点としてみることで適切な指導をすることができる。また、児童も自分で学びを進めることができ、非常に優れている。教科書の随所に多様な書籍が紹介されており、幅広い分野に関する知識や教養を豊かにできる配慮がされており、児童の興味がある部分ではより深く学ぶ機会が設けられていること。という点が選定の大きな理由となっております。光村図書は単元の冒頭にしっかりと学びの説明がされており、教材文の後ろには学び方の目安が示されており、児童が自分で学びを進めることができる。児童にとって学びやすい構成となっているという点が優れております。保護者の方からは、光村図書は二次元コードが必要なところで必要な情報として配置されており多用されすぎている点が良い。というご意見をいただいております。国語につきましてご審議をお願いいたします。

【教育長】

ありがとうございます。それでは、種目ごとに検討をしていきたいと思っております。説明があり

ました国語についてご意見・ご質問等ありましたらお出しください。

【委員】

私も見させていただきまして、今おっしゃっていただきました、光村図書さんは文学教材が充実しておりますし、内容的に私は適量であると思えました。以上でございます。

【委員】

選定理由書のお話の中でもありましたけど、多様な本が紹介されているということが光村図書の良さでもあるので、これについては当然のことながら各学校の図書室に紹介されている本は全部整備していただきたいなと思います。授業の中で出てきたときに、「図書室にあるから読んでみてね。」と話をして、ぜひ授業の中で活用することも進めてほしいと思います。

【義務教育課長】

これまでも教科書で紹介されている図書につきましては、学校の図書室に配置できるようにしてきておりました。今後もそのような形で、子どもたちが実際、本に触れることができるように、学校に整備できるよう進めていきたいと思っております。ご意見ありがとうございます。

【教育長】

よろしいですか。そうしましたら次にいきたいと思えます。次は書写になります。

【義務教育課長】

続きまして、書写です。書写は3社ございまして、推薦として挙がってきたものが、教育出版と光村図書でございました。その後、採択協議会で協議をし、書写は光村図書を答申として挙げさせていただきます。選定理由書をご覧ください。選定理由としましては、毛筆で学習したことを、硬筆においても活かす意識を高めることができるよう、ページの下部に硬筆欄を設置されていること。各教材においては、導入、理解、確認、活用、振り返りという展開で統一して構成され、展開がわかりやすく、指導する上でも使いやすい構成になっていること。姿勢や筆記具の持ち方が定着できるよう書写体操・整理体操が掲載されており、絵や動画を見ながら取り組むことができ非常に良いということ。また、他教科との関連については他教科の関連教材「書写を広げたい」が豊富で充実している。という点が選定の大きな理由となっております。書写につきましてご審議をお願いいたします。

【教育長】

ありがとうございます。書写につきまして、ご意見・ご質問等ございましたらお出しください。小松委員、お願いします。

【委員】

書写は学校に行きますと、作品を教室の中や廊下に貼り出したりしていますので、非常に大事な勉強だと思います。この教科書採択も非常に慎重にした方がいいかなと思いますけれど、基本的には文字について学びますので、その点でいうと一番メインが国語の教科書との関連を気にするのです。国語は国語、書写は書写と別の教科書会社の採択であっても構わないのでしょうか。今、推薦で出てきているのがたまたまどちらも光村図書で良いと思います。私は推薦理由の下から2番目の他教科との関連教材云々という、これが光村図書の良さだと思いますので、文字を文字だけではなくして、国語はもちろんのことほかの教科の中でも文字の意味をしっかりと分かりながら字を書いていくことができやすい教科書だと思います。別でも構わないか、一緒の方が望ましいかという議論があったのでしょうか。

【義務教育課長】

書写と国語の教科書が同じ方が良いのかどうかにつきましては、特に議論はされていなく、先生方からは揃っていた方が良いという意見は出ていませんでした。

【教育長】

そうしましたら、先ほどありました国語そして書写につきましては光村図書出版株式会社を採択していくことで進めたいと思います。続きまして、社会に移りたいと思います。

【義務教育課長】

社会は3社ございまして、推薦として挙がってきたのが、東京書籍と教育出版でございました。そのあとの採択協議会で協議をし、社会は東京書籍を答申として挙げさせていただきます。選定理由書の3ページをご覧ください。選定理由としましては、どの教科書も内容や進め方に特に大きな違いはありませんでしたが、東京書籍につきましては児童の興味・関心を惹く題材が多いこと。「店で働く人」の学習では消費者の視点とバックヤードでの仕事が紹介されており、児童が様々な視点から考える工夫がされていること。4年生の国際交流に取り組む街・仙台市では外国人住民が安心して生活できる街の取り組みについて取り扱われており、共生していくための具体的な活動がわかりやすく紹介されている点が良いこと。また各单元においては学習段階「つかむ、調べる、まとめる、活かす」の例示がされており、問題解決的な学習の展開を促す内容になっていること。情報量的には適切で学びやすい。という点が選定の大きな理由となっております。保護者の方からは、東京書籍の6年生は政治・国際編と、歴史編に分かれていて、重さの問題もあるでしょうが、考え方も整理しやすく、わかりやすいのではないのでしょうかというご意見をいただきました。社会につきましてご審議をお願いいたします。

【教育長】

社会につきましてご質問ご意見等ございましたらお出してください。

【委員】

今、説明がありましたが、例えば「店で働く人」では、消費者の視点とバックヤードという書き方をされていますが、3年生・4年生で使用する地域教材、「わたしたちの町とよの」の内容と似ているのではないかと思います。また、学習段階の「つかむ、調べる、まとめる、活かす」というのは、これからとよの未来科でもしていこうということと、非常に観点がうまく述べられているように思うので、とてもすてきな教科書ではないかと思います。

【教育長】

それでは、社会につきましては東京書籍を採択していくことで進めたいと思います。次に移ります。地図について、お願いいたします。

【義務教育課長】

続きまして、地図についてです。地図は2社ございまして、東京書籍と帝国書院のどちらも推薦として挙がってきました。地図につきましては、帝国書院を答申として挙げさせていただきます。選定理由は、「地図ってなんだろう」において、真横から見た学校、斜め上から見た学校、真上から見た学校を配列し、地図とは何かを丁寧に取り扱っていること。立体感のある表現がされ土地利用の様子がよくわかるとともに、視覚的に落ち着いた色彩を用いていて、視覚特性に配慮がされている点が特に優れていること。地図上の情報が少ないものが多いものに分かれており、児童にとって読みやすく、重要な地名を探しやすい作りになっていること。情報量については、単純に比較すると帝国書院の方が総ページ・地図・資料ともに多いですが、それを感じさせない編集がされており児童にとって見やすく使いやすい。という点が選定の大きな理由となっております。地図につきまして、ご審議をお願いいたします。

【教育長】

地図につきましての説明が終わりました。ご意見ご質問等ございましたらお出してください。

【委員】

見本本を読み比べてみたのですけれども、学校で使う地図ではもったいないくらい本当に楽しい教科書になっていました。大人が見ても、国内外それぞれ地理について興味が湧くような教科書になっていて、どちらの教科書もそれぞれ個性があり大変良かったです。地図の中に、各地方の有名な食べ物や歴史的なものとかが載っておりました。それを見ながら、「豊能町に何か載せるとしたら、どんな豊能町の名物や自然を載せたらいいか。」と、できれば授業の中で工夫できる地図帳が良いと思うので、そのイメージの湧きやすさを考えると、帝国書院が良いかと思いましたので、ぜひそちらを採択していただきたいと思います。

【教育長】

それでは、地図につきましては帝国書院ということで採択をしていきたいと思います。次に、算数に移ります。説明をお願いいたします。

【義務教育課長】

続きまして、算数について説明をさせていただきます。算数は6社ございまして、推薦として挙げてきたものが、東京書籍、学校図書、啓林館でした。算数につきましては、学校図書を答申として挙げさせていただきます。選定資料4ページをご覧ください。選定の理由としましては、学習の始めだけでなく色々な場面でめあてが例示されていて、学習の流れの中で自然と児童が学ぶ目的を持つことができるようになってきていること。ユニバーサルデザインの観点から、色使いやレイアウトなどが配慮されており、サイズも大きめで紙面に余裕があること。文章の記述や分量について、児童の発達段階を考慮した内容になっていること。1年生の数の学習では、10まで、30まで、120までと分け、十進位取り記数法の定着に十分な時間がかけられるようになってきていること。また、考え方モンスターを一覧できるようにすることで、場面に応じた見方、考え方を身につけられるようになってきていること。前学年での学習を領域ごとに振り返られるようになってきていること。最後に、大きな数ではブロックを扱っており、児童が量感をつかみやすく、非常に優れている。という点が大きな選定理由となっております。学校図書は、ページ数で言えば一番多い教科書となっておりますが、1ページの見やすさを重視すると学校図書が良い。また、他教科との関連やその後の算数がどう繋がっていくかという内容が良い。というご意見もございました。算数につきまして、ご審議をお願いいたします。

【教育長】

算数につきまして、説明が終わりました。ご意見ご質問等ありましたらお出してください。

【委員】

各教科書会社、非常に個性がありそれぞれに良さがあるなと感じました。私の感じで大きく分けると、教科書そのものに答えを書き込んでいくようなタイプと、そこでの問題や説明を使いながら先生が補充的に説明した方が良いものがあったりして、それは先生方がどう使っていくかの工夫があって良いなと思います。私自身は、算数というのは単元の前段階の学びと、後段階の振り返りの学びと、さらに発展的な学びがある程度意識された編集になっていることが大事だと思います。ご説明があった学校図書の中の説明書の下から二つ目の中に、補充問題や深めよう等が割と丁寧に書かれていることが、魅力的だなと思います。また、タイトルにいろんな個性的なものが出ていて、例えば学校図書では、「みんなと学ぶ小学校算数」という教科書のタイトルになっています。この「みんなと学ぶ」ということを、私は一緒に考えていくという、今の算数の教え方の流れとして魅力的なタイトルでもあり、そのタイトルに合わせた編集になっているなと思うので、ぜひこういう教科書が採択されると良いなと思っています。

【義務教育課長】

学校図書の教科書にはすべてその教科書の前のところに、「みんなと学ぶ」というタイトルがつけられていて、学校図書では先生や友達と一緒に学ぶことを大切にしたいという思いを込めたタイトルになっていると書かれておりました。以上です。

【委員】

学校図書の算数を見せていただいて、ページ数が多いということだったのですが、印象としては混雑してなくて、わかりやすいなと思いました。他の教科書会社も様々な色であるとか、配置であるとかコーナーであるとか、工夫があったのですが、学校図書は詰め込んでいっぱいという感じがなくて良かったなと思っていました。すごく具体的になりますが、1年生の「何番目」という単元を他社と見比べてみました。「何番目」というのは数に量と順序があるということを意識させる単元なのかなと思っています。例えば、3匹と3匹目は違うということ意識させるのに、他社では、例えば5台と5番目というように単位を変えてものを比較していて、そのステップが私としてはすっきりきませんでした。学校図書は3匹と3匹目をまず比較するというような段階を踏まれていたので、すごくピンポイントですが、良いなと思ったところでした。ご説明の中に、「大きな数でのブロックを使った学習が行われ」とあるのですが、もう少し詳しく教えていただけたらと思います。

【義務教育課長】

実際に教科書を見ていただいた方がわかりやすいと思いますので、推薦に挙げられた3社の東京書籍、学校図書、啓林館の1年生の教科書を使って説明をさせていただきたいと思います。学校図書の1年生の下の46ページを見ていただけますでしょうか。東京書籍は1年生②の96ページになります。啓林館は、1年生の98ページになります。「大きな数」という単元になりますが、学校図書は、1年生はブロックで学習を進めていき、大きな数でもブロックを使っています。東京書籍では、タイルを使って学習が進んでいきます。啓林館では、数え棒になっています。実際子どもたちはブロックで学習を進めていって、量感をつかませるというようにしていますので、学校図書の方が子どもたちにとっては量感が理解しやすい教科書ではないかというのが調査員の先生方からの意見でありました。

【教育長】

前は啓林館を使っていたかと思います。その前は学校図書と、採択によって変わっていくことにつきましては、調査研究する中で話ございましたか。

【義務教育課長】

前回採択された教科書と今回採択する教科書が変わることになりますが、その点については、特に先生方から変わることに對してご意見は挙がっておりませんでした。今回は特に先生方が言われていたのは、子どもたちの量感を低学年からどうやってつかませるかということが結構苦労されているところで、教科書の見やすさや、練習問題の量など学校図書の方が豊能町や能勢町の子どもたちに合っているのではないかということでこちらを推薦してきているという状況です。

【教育長】

学校図書、啓林館、東京書籍と、教材等が違ってくると思います。内容は委員さんからあった通り、また調査員の方から出されている通りが良いと思いますけれども、4年ごとに教科書が変わっていているということが少し気になったところがございます。それでは算数につきましては、学校図書を採択していくことで進めたいと思います。次は理科に移りたいと思います。説明をお願いいたします。

【義務教育課長】

続きまして理科についてです。理科は6社ございまして、推薦として挙げてきたのが、東京書籍、大日本図書、啓林館でした。理科につきましては、東京書籍を答申として挙げさせていただきます。選定理由書の5ページをご覧ください。すべての教科書において予想を立てて実験をし、次の課題へ、という流れでできておりますが、東京書籍を選定した理由としましては、単元構成が季節に応じており、掲載順に学習を進めることができること。QRコードの位置がわかりやすく、学習の流れで授業中にQRコードを見るような指示が通りやすいこと。デジタ

ルコンテンツが非常に優れており、短い時間でも学習の流れがつかみやすく、児童が家で学習するときも自分で学んだり学び直したりできる内容になっていること。単元の導入では、身近な体験や写真、資料が取り扱われており、児童の興味・関心を高め、疑問や気づいたことなどを引き出し、問題解決学習が行われるよう工夫されている。という点が大きな選定理由となっております。また、教員が実際に教科書を使って教材研究を試みたところ、児童が学習の流れをつかみやすそうであり、教員としても指導をしやすい。また、授業の2、3日前の教材研究でも授業の流れを組み立てやすいという感想がありました。理科につきまして、ご審議をお願いいたします。

【教育長】

説明が終わりました。ご意見、ご質問等ございましたらお出しください。

【委員】

どの教科の教科書においても言えるのですが、特に理科は色々なサイズの教科書があると思います。A4版やB5版等があると思いますが、教科書のサイズは揃っている方が良いのかなと思うのですが、そういう議論はなかったですか。

【義務教育課長】

教科書は様々な大きさがありますが、すべての教科書でサイズが揃っていた方が良いのかどうかということにつきましては、議論にはなっておりませんでした。ちなみに、今回選定されている東京書籍は、A4版ということで、一番大きいものになります。

【委員】

A4版が一番いいかと思います。今回に限ったことではないのですが、以前、小・中学校で理科の教員をしていたことがあるのですが、選定について経験をそのまま言いますと、小学校と中学校の教科書が違くと雰囲気が違って、やはり教科書会社が一緒だと良いなど記憶に残っています。配布された資料を見ていると、中学校は啓林館、小学校は東京書籍と違って、これから義務教育学校になっていく中で統一していった方が良いかとは思いました。

【教育長】

今、富永委員から出していただきました課題につきましては、来年度、中学校の教科用図書の採択がございますので、そういったことも見越して採択をしていかなければならないと思います。中学校の教科書採択につきましてはまた事務局で整理をしていく必要があると話をしているところであります。豊能町も令和8年から義務教育学校になりますので、9年間を通した教育になる中で、教科書が違ふということで少し課題があるのではないかと考えています。他にございますでしょうか。

【委員】

ご説明の中にデジタルコンテンツが非常に優れているという説明がありましたけれども、具体的に詳しくお聞きしたいと思います。

(馬渡委員入室)

【義務教育課長】

デジタル教科書が東京書籍の方は本当に非常に優れているという感想を先生方が持たれておりました。QRコードが教科書にそれぞれついているのですが、とてもわかりやすい位置にあって、先生の指示が子どもたちに伝わりやすい位置にあり、中身については、短時間の内容であるけれども子どもたちが十分に理解できるような内容になっていて、例えばタブレットを家に持ち帰って子どもたちが自分たちで家庭学習をする時に、自分で学び直すことができるような内容になっているのでとても活用しやすいのではないかと。というご意見をいただいております。

た。またこちらの内容につきましては、今回は中学校の理科の先生とも少し小学校の先生は意見交換をされていたようで、結果的には小学校と中学校同じ出版社にはならなかったのですが、中学校の先生とも話をしながら今回の調査をしていただいているということを聞いております。以上です。

【教育長】

他にありますでしょうか。そうしましたら、理科については東京書籍で進めたいと思います。次に移ります。生活についてです。説明をお願いいたします。

【義務教育課長】

続いては生活です。生活は7社ございまして、推薦として挙げてきたものが、東京書籍、学校図書、教育出版でした。生活につきましては東京書籍を答申として挙げさせていただきました。選定理由書の5ページをご覧ください。生活につきましては、目標や内容については、それぞれの工夫があり、各社偏りはありませんでした。また人権の取り扱いや、UD フォント等も大きな違いはなく、発達段階についても、いずれも、読みやすさ、見やすさ、わかりやすい言葉を使用するなどの配慮がされております。その中で東京書籍を答申として挙げた選定の理由としましては、約束・調べようなどの紙面のレイアウトが固定され、児童にとって非常にわかりやすく表示がされていること。具体的な活動のイメージが持てるように工夫されていること。振り返りや表現活動の充実が図れるものが多く、子どもたちが自分たちで考えて表現できる内容になっていること。二次元コードが非常に多く取り入れられており、興味関心によって一人一人の学びが深められるように掲載されていること。ということが大きな選定理由となっております。教科書のサイズは先ほど理科でも出てきましたが、A4 と大きくなっておりますが、このサイズの方が見やすい。また写真が大きく掲載されているのでわかりやすく迫力がある。子どもたちの印象に残る。というご意見がございました。生活につきましては、以上です。ご審議をお願いいたします。

【教育長】

生活についての説明が終わりました。ご意見、ご質問等ございましたらお出しください。

【委員】

今ご説明いただきましたように推薦いただきました3社ともあまり変わらないということでございまして、二次元コードにつきましてもどの出版社も入れておられ、大変素晴らしいものだったと思っております。東京書籍を見ましたら、写真の見せ方がすごく面白いと思えました。例えば1年生の上の、28ページから32ページの植物の種、花、双葉、つぼみという所がすごく良かったと私自身思っております。最後におっしゃいましたように、A4 サイズということでございましたので、大変見やすく私は良いなと感じました。以上でございます。

【義務教育課長】

ご意見ありがとうございます。宮崎委員からご紹介いただいたところを教科書でご紹介したいなと思います。種をまこうという単元になります。生活の1年生の28ページをご覧ください。左側に花がついていて、次のページでは双葉がついていて、また次ページにいくと双葉のとなりに花のつぼみが出てくるという作りをしているのが東京書籍の特徴となります。A4 版でサイズが大きいです。写真がきれいで迫力がある中身になっていると思います。

【委員】

生活は1年生・2年生と低学年の子たちが学ぶものですので、教科書も発達段階の子どもにとって親しみやすいものということが一つ。それから、花についても写真で見るだけでなく実際に栽培するというところもあると思います。むしろそういう実物をきちんと学ぶとか或いは周りの環境を学ぶということがあるので、そういう意味で言うと、自分たちの地域や身の回りのことについて、子どもたちに興味・関心を持ってもらえるような授業をして欲しいことと、そういうことをやりやすい教科書が採択されると良いなと思います。

【教育長】

それでは、生活については東京書籍ということで進めたいと思います。次に、音楽へ移りたいと思います。説明をお願いいたします。

【義務教育課長】

音楽は2社ございまして、教育出版と教育芸術社のどちらも推薦として挙がってきております。音楽につきましては、教育出版を答申として挙げさせていただきます。選定理由書の6ページをご覧ください。選定理由としては、各学年の巻頭にある学習マップでは、学習の見通しを示しながら各題材で学習する内容がイラストや写真で、視覚的にわかりやすく解説されている。歌唱教材については、音域や曲の長さ、歌詞の内容などが発達段階に即したものになっている。鍵盤ハーモニカやリコーダーについては、新出音などが細やかなステップアップで扱われており、発達段階に即した技能の定着に配慮されている。曲数の面で短めの曲が若干多くなっている。豊かな言語活動ができるように、巻末に音楽を表すいろいろな言葉が記載されており、掲示して使いたいと思うくらい優れたコンテンツであること。音楽づくりに関しては活動例が具体的に示されており、児童が活動の見通しを持つことができ非常に取り組みやすいものになっていること。折り込みを使ったワイドな紙面で歌詞の内容に沿った綺麗な写真が掲載されており、曲のイメージが膨らませやすい内容となっていること。ということが大きな選定理由となっております。保護者の方からは、教育出版の写真がとても綺麗で情景を思い起こさせるのに役立つと思います。というご意見をいただきました。音楽につきましては、ご審議をお願いいたします。

【教育長】

音楽についての説明が終わりました。ご意見、ご質問等ございましたらお出しください。

【委員】

私の印象では、教育出版の方が音楽の指導者からすれば、知って欲しいことや学んで欲しいことがすごくたくさん載っている印象があって、音楽が得意とか好きな子どもは良いと思います。ただ、得意でなく苦手な子どもからするとそれが嫌で、難しいことがいっぱいだということにならないかと、少し不安を感じるような印象を私は受けたのですけれども、そういう意見はなかったでしょうか。

【義務教育課長】

音楽の教科書につきましては長い間、教育芸術社の教科書を豊能地区では使っておりますので、先生方もすごく使い慣れているという意見がありました。調査委員の先生方が今回調査を改めてしてみまして、教育出版の方は例えば鍵盤ハーモニカやリコーダーについて、細やかなステップで、練習が進められていくところがすごく良く、子どもたちにとって色々な技能を身につけるのに定着しやすいような中身になっているのではないかというご意見がございました。教科書を使ってご説明します。教育出版の方の5年生の20ページをご覧ください。「和音を合わせて旋律を作ろう」というページがあります。このページについて調査員から報告があったのですが、音の高さが視覚的にもわかるような内容で、子どもたちにとっては理解しやすいというご意見をいただいております。以上です。

【委員】

小学生の中で音楽と言えば、3年生で初めてリコーダーが出てきて、リコーダー初めて吹けるというすごいワクワクがあると思うのですけれども、教育芸術社の方がいろんなリコーダーが出ていて、楽しそうっていうのがすごく感じられたなと個人的に思っています。ぜひ教育出版になっても、現場の先生にはそういう楽しいということを大事にしていきたいなと思っています。

【教育長】

そうしましたら、音楽につきましては教育出版で進めたいと思います。続きまして、図画工作についてです。説明をお願いします。

【義務教育課長】

続きまして、図画工作についてです。図画工作は2社ございまして、開隆堂と日本文教出版のどちらも推薦として挙がってきております。図画工作につきましては、日本文教出版を答申として挙げさせていただきます。選定理由書の7ページをご覧ください。選定理由としましては、「友達の作品を見て話そう」など、友達と協力や会話をしながらアイデアを出し合い制作する題材が多く、対話を通して思考力を働かせ、学びを深めることができるよう非常に配慮されている。高学年の題材については、未来の自分を想像しながら作る活動を通して、自分のありたい姿や自分らしさについて考えたり、社会や職業について考えたり、キャリア教育に繋がる工夫がされている。人権の取り扱いで、環境、地域文化、伝統文化、多文化共生、国際理解、平和、人権、防災、安全に関わる題材や事例が、多岐にわたって取り上げられている。また様々な発想や構想などに気づけるような題材設定や版の特性を活かして表す題材や粘土を扱う作品を具体的に紹介し、能動的な表現活動を取り入れ表現と鑑賞を往還しながら学びを深めることができるようになっている。全身の感覚を使って材料や用具に触れる題材が設定され、形や色に主体的に関わることを促すような写真を多く掲載し、児童の選択肢が多く、特に工夫されていること。二次元コードのコンテンツや3種類のアートカードなど、楽しみながら鑑賞し表現する方法を促す工夫が優れている。ということが大きな選定理由となっております。保護者の方からは、日本文教出版の教科書は子どもがやってみたいと思える内容であると思えずとのご意見をいただいております。図画工作につきまして、ご審議をお願いいたします。

【教育長】

説明が終わりました。ご意見、ご質問等ありましたお出しください。

【委員】

幼稚園や保育所でしていた泥んこ遊びなどの外遊びが、小学校の図画工作に繋がると思うのですが、日本文教出版の教科書はその辺りを丁寧に扱われているということで、確かにその通りだと思います。保育所、幼稚園の時は机もない場合もあって、小学校へ入った時にまず課題になるのは机で作業ができるかということだと思います。そういうことが抵抗なくできるのであれば、日本文教出版はとても良いのではないかと思います。

【教育長】

そうしましたら、図画工作につきましては日本文教出版ということで進めたいと思います。続きまして家庭科に移ります。説明をお願いいたします。

【義務教育課長】

家庭科についてです。家庭科は2社ございまして、東京書籍と開隆堂のどちらも推薦として挙がってきました。家庭科につきましては2社から1社に絞ることが本当に難しかったのですが、開隆堂を答申として挙げさせていただきます。選定理由書の7ページをご覧ください。選定理由としましては、生活の課題と実践の取り組みが5つのステップで示されており、生活の中から課題を見つけて取り組むことができるようになっている。教科書の紙質にざらざら感があり、子どもたちが書き込みしやすい素材になっている。また実習の流れが横一列に示されていて、児童にとってわかりやすい紙面になっている。話し合おうという場面が多数設定されており、児童が教え合ったり相談したりしながら主体的に学べるように工夫されている。単元ごとに振り返り、これからの生活にどう活かしていくかを書く欄があり、学習したことを自分の生活にどうつなげていくかを考えさせることができる構成になっている。ということが大きな選定理由となっております。家庭科につきまして、ご審議をお願いいたします。

【教育長】

説明が終わりました。ご意見、ご質問等ありましたらお出してください。

【委員】

2社の教科書を見させていただきまして、先ほどご説明いただきましたように書き込みがしやすいことが、開隆堂の特徴ということで私も記憶しております。私の孫は左利きと右利きがいており、包丁の持ち方やはさみの持ち方について、右利きと左利きの両方が掲載されていて、すごく良いなと思います。すべての児童に対応できるような内容の工夫がされておりすごく感心しました。それから野菜の切り方につきましても、実物大の野菜の写真を掲載しておられますので、子どもにとっては一番良いのではないかなと私は思いました。以上でございます。

【教育長】

それでは、家庭科につきましては開隆堂ということで進めていきたいと思えます。次に、保健に移りたいと思えます。説明をお願いいたします。

【義務教育課長】

保健についてです。保健は6社ございまして、推薦として挙げてきたのが、東京書籍、大修館、学研でした。保健につきましては、東京書籍を答申として挙げさせていただきます。選定理由書の8ページをご覧ください。選定理由としましては、他の人の意見を聞いて考えたことや、わかったことを書く活動が設定されており、仲間と対話的に課題を解決していくことができるようになっている。学習したことを自分の生活と関連付けて考える発問が設けられており、生活との関連の重視に配慮されている。児童が考えて書き込む箇所が充実しており、非常に使いやすい。豊富な資料や二次元コードのコンテンツが使用されており、児童にとって特に理解をしやすい。各章の扉には、学習内容と関係するSDGsの目標が記載されているとともに、特設サイト「SDGs 私が作る未来」を視聴できる二次元コードがついている。ということが大きな選定理由となっております。保護者の方からは、東京書籍はキャラクターが画一的ではなく、多様性が見られてよいというご意見をいただいております。保健につきまして、ご審議をお願いいたします。

【教育長】

説明が終わりました。ご意見、ご質問等ございましたらお出してください。

【委員】

教科書に対しての意見というよりはコメントです。感染症に関して全部の教科書を見たのですが、世界的に有名な3大感染症は結核・HIV・マラリアと言われています。しかし、マラリアに触れている教科書が一切ありませんでした。小学生はそこまで国際的なところは必要ないのかなと思ったのですが、他の教科書で国際性のことを書かれていたりしますので、内容的にそういう意味では偏っているかなという気がしました。身近な感染症を扱っているところや、感染症として重症化しやすい病気のことを扱っている教科書もあり、教科書によって差異がありました。教えるときに、その辺のことを考慮して教えていただくといいかなと思います。

【教育長】

ありがとうございます。専門的な見地からご意見をいただきました。それでは保健につきましては、東京書籍を進めたいと思えます。続きまして英語に移ります。説明をお願いいたします。

【義務教育課長】

英語についてです。英語は6社ございまして、推薦として挙げてきたのが東京書籍、開隆堂、三省堂でした。英語につきましては、開隆堂を答申として挙げさせていただきます。選定理由書の9ページをご覧ください。選定理由としましては、単元の中で実際に英語を使ってお

互いの気持ちや考えを伝え合う言語活動が充実している。児童の発表の様子を収録したモデル動画は、相手にわかりやすく伝えたり反応したりする方法がイメージしやすいなど、デジタルコンテンツが充実している。文字の読みやすさ、情報の読み取りやすさ、カラーユニバーサルデザイン等に配慮されている。新出言語材料の分量や提示の仕方は児童の発達段階に配慮されており、その内容が繰り返し提示されて理解・習熟を促すことができる。別冊のワードブックは、言語材料を理解したり練習したりする活動に取り組みやすい。全単元がほぼ同じ構成のため、見通しがつきやすくペアやグループで伝え合う活動が多く配置され、英語を使いながら学ぶという構成になっている。絵を手がかりに自分の考えや気持ちを伝える「言葉を選べる別冊ワードブック」や、児童が学習の積み重ねを実感しながら取り組むことができる巻末の書き込みページなど、主体的な学びが実現できるよう自分の成長や課題を確かめながら学習に取り組む工夫がなされている。という点が大きな選定理由となっております。開隆堂は見た目の情報量が多いですが、教師が取捨選択をしながら指導することができる。補助教材の準備に時間を割かなくても教科書を使ってしっかりと学ぶことができる教科書ではないか。というご意見もございました。英語につきまして、ご審議をお願いいたします。

【教育長】

英語について説明が終わりました。ご意見・ご質問等ありましたらお出しください。

【委員】

教科書の英文はデジタルコンテンツ等で、児童が自宅で聴こうと思ったら聴けるのでしょうか。

【義務教育課長】

教科書についているQRコードを読み取りますと、子どもたちがそれを聴いて学習することができるようになっております。

【委員】

小学校5、6年生の高学年に英語がおりてきた経緯が色々あると思います。言語には読む・書く・聞く・話すがあり、特に小学校英語の場合は、中学校の読む・書くよりも、聞く・話すに重点を置いて始まっていったと記憶しています。東京書籍と三省堂の2社について、東京書籍は大手の教科書会社なのでデータのコンテンツに強いと思います。もう一つ、三省堂は英語の教科書をずっと出版してきている会社かなと思います。その二つの教科書の違いについて論議されたことがありましたら教えてください。

【義務教育課長】

開隆堂の特徴につきましては先ほど説明させていただきましたが、東京書籍の特徴としましては、まず全単元が同じ構成になっていて子どもたちが見通しを持ちやすい内容となっているということと、見開きの1ページが1時間で学習できる内容構成になっているので使いやすいということ。ただ、東京書籍は他の出版社に比べて各項目、書く所が非常に多いのですが、デジタル教科書と上手くリンクをしていて活用しやすい教科書となっています。三省堂につきましては、紙面がとてもすっきりしていて見やすいということ。書く量や1ページの中に収められている情報量などが子どもたちにとって適量である。別冊で辞書のようなものがついていてとても充実しているところが特徴として挙げられております。以上です。

【委員】

どの教科もそうなのですが、小学校では、教科担任制が導入され、英語についてはALTが入り、授業されています。先生が5、6年生の英語の授業をする際は、教えやすく先生が教えたいと思うような内容が入っていることが大事で、デジタルばかりが良いというわけではないと個人的には思います。三省堂を応援しているわけではないのですが、書く量が多いということは、今後を考えていくと負担にならないのかなと思います。もちろん先々のことを考えたら早く書けるに越したことはないと思います。これはあくまでも意見なので、参考にしてください。

【委員】

英語の教科書を見てみて、峯課長から説明がありましたように、まずステップアップしているのは単語について別冊型の教科書会社が増えたということです。これは先生方からすると、今まで自分たちで作る必要があったものが、もうすでにできているという点で良いと思います。別冊型の単語帳みたいなものでも動物なら動物が並び、色については色が並んでいる形なので、教科書と別冊の両方をうまく使ってほしいです。英語が教科となって教科書ができてまだ歴史が浅いので、それぞれまだ発展の途中だろうと思いますけれど、明らかに他の教科書に比べるとレベルアップしているなということが一つ。4技能のうち小学校段階でどこを重点化するかという点で、私はやはり話す・聞くが大切だと思います。しかも1人1台端末になったので、その情報端末をもっと積極的に活用していくということ。私のイメージでは英語の場合は他の教科以上に、教科書がページの中にびったりと収まっていて、それをその通りに教えるということよりは、むしろ場合によっては超えたり少なくしたりしてもいいように思います。他の教科のように、45分の中にちょうどこの2ページ分を終えるという捉え方ではなくてもいいのではないかなと思います。それは先生がこの教科書をどう使うかということでもあるので、その辺の工夫が欲しいなと思います。こういうものを参考にしながら、できればALTさんとも工夫をしてもっと良い授業を開発して欲しいということが色々な教科書会社を見ての私の感想です。それぞれ良さは出ているのですけれども、私は推薦として挙げてきた開隆堂の教科書が他のものと比べると良いかなという感じがしましたので、委員会の報告を尊重したいと思っています。

【義務教育課長】

豊能町の実態をお話しますと、小学校5、6年生の英語の授業は学級担任の先生が持たれていたり、専科の先生が授業を持たれていたり、学校によっては中学校の教員が5、6年生に授業をしているという、各学校様々な状況となっております。その中で、英語を専門としていない小学校の先生であっても、中学校の専門性の高い先生が持ったとしても、こちらの開隆堂の教科書はそれぞれの先生の工夫次第で使いやすい教科書になっているのではないかなと思います。以上です。

【教育長】

英語につきましては、開隆堂ということで進めていきたいと思っています。最後になりますが、道徳につきまして説明をお願いいたします。

【義務教育課長】

最後になります、道徳です。道徳は6社ございまして、推薦として挙げてきたものが、東京書籍、光村図書、日本文教出版でした。道徳につきましては、日本文教出版を答申として挙げさせていただきます。選定理由としましては、教材の冒頭であらすじや主な登場人物について短くまとめられており、児童が見通しを持って教材に入りやすい。また、児童と同年代の主人公設定が多いので、非常に親しみやすく扱いやすい。1年生から一人一人に個性があることを知り、ジェンダー理解へとつなげる教材や人権に関わる教材が設けられているところが非常によい。自己の生き方について考えるなど、児童にとってより考えやすいよう配慮されており、特にいじめについての教材が重点的に取り扱われている。各学年において他教科や現代的な課題との関連を意識した教材が配置され、児童が意欲的に考えたり教材の理解がしやすくなったりするように工夫が随所にされている。道徳ノートは発問が記載されていないことで活用しやすくなっており非常に良い。ということが大きな選定理由となっております。道徳につきまして、ご審議をお願いいたします。

【教育長】

説明が終わりました。ご意見、ご質問等ございましたらお出しください。

【委員】

道徳について、特別の教科道徳という形になり教科書ができてきて、道徳の時間の授業のやり方が進化してきていると思います。道徳教育の中で、現在活躍しているような人物、或いは現代的なテーマが入っているものを、私はぜひ取り扱って欲しいと思います。例えば、ノーベル賞をもらった山中伸弥先生の話が出ていて、それを実際に聞けたり、SDGsのようなテーマだったり道徳の授業の中でもしっかりと学んで欲しい、考えて欲しいと思うので、そのようなことがしっかりと入っている教科書が先生たちにとって使いやすいだろうなと思います。そうではなくても、自分でそういう教材を発掘し用意していただくことが、時代が変わる中では良いなと思いますけども、教科書の中にそういうねらいを含めて入っていることは、非常に大事な採択する際の視点だと思います。そういう視点で選定してもらえたら良いなと思いました。

【教育長】

道徳につきましては、日本文教出版ということで進めたいと思います。13種目の説明、質疑等が終わりました。何かご意見等ありますでしょうか。

【委員】

改めて色々な教科書会社の教科書を見てみて、最後のページのところにほとんどの教科書会社さんが、編集にあたり人権に関する視点でチェックをしてあったり、ユニバーサルデザインに配慮し、特別な専門家に頼んでチェックしてもらったりしていることを書かれています。もしかしたら文部科学省の検定で全体的な縛りや要求があったのかもしれませんが。私は、最近の教科書は人権に対して非常に配慮した編集になっているか、ユニバーサルデザインに配慮した内容になっているかが非常に大事なことだと思っています。先生方にはぜひ最近の教科書が非常に気をつけて編集している部分について、ぜひ目配りをしていただいて、授業の中で人権に関して配慮する、或いは色々な個性のある子どもたちに対しても、教材・教具の開発についても工夫をするというようなことをぜひ、この新しい教科書を来年度から採択するにあたって配慮して欲しいなど、私からの要望です。

【義務教育課長】

ただいま小松委員からいただきましたご意見につきましては、また学校を訪問して授業を見る機会がありますので、そういう機会に先生方に伝えていきたいと思っています。ご意見ありがとうございます。

【教育長】

質疑を終結いたします。採決を行います前にもう一度、各種目の答申内容を確認して参りたいと思います。国語は光村図書、書写は光村図書、社会は東京書籍、地図は帝国書院、算数は学校図書、理科は東京書籍、生活は東京書籍、音楽は教育出版、図画工作は日本文教出版、家庭は開隆堂、保健は東京書籍、英語は開隆堂、道徳は日本文教出版、ということでよろしいですか。それでは採決を行いたいと思います。ただいま提案のありました令和6年度使用小学校、義務教育学校前期課程教科用図書の採択について賛成の方の挙手をお願いします。

(挙手全員)

ありがとうございます。挙手全員であります。よって、答申通り採択することといたします。ありがとうございました。続きまして令和6年度使用中学校用教科用図書の採択につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

【義務教育課長】

来年度、中学校で使用する教科用図書につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償

措置に関する法律第 14 条に基づき、令和 5 年度と同一の教科書を採択するというご確認
いただきたいものとなっております。資料の「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関
する法律」の 5 ページをご覧ください。第 14 条に「義務教育諸学校において使用する教科用図書
については政令で定められているところにより、政令で定める期間、毎年度、種目ごとに同一
の教科用図書の採択をするものとする。」としております。定める期間が 4 年間となっており
ますので、令和 6 年度の中学校使用の教科用図書につきましては、来年度は 4 年目というこ
とで、今年度と同一の教科用図書を採択するというご確認をお願いしたいと思います。よ
ろしくお願いいたします。

【教育長】

説明がありましたように、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 14 条に基
づきまして、令和 3 年度から使っております教科書は 4 年間同一のものを使うということにな
っておりますので、それぞれの種目につきまして確認をさせていただきます。国語につきまし
ては三省堂、書写につきましては光村図書、社会地理につきましては帝国書院、社会歴史につ
きましては日本文教出版、社会公民につきましては日本文教出版、地図につきましては帝国書
院、数学につきましては日本文教出版、理科につきましては啓林館、音楽一般は教育芸術社、
音楽器楽合奏につきましては教育芸術社、美術につきましては開隆堂、保健体育につきまして
は東京書籍、技術家庭技術分野につきましては教育図書、技術家庭家庭分野につきましては東
京書籍、英語につきましては啓林館、道徳につきましては日本文教出版ということで確認をさ
せていただきますが、よろしいでしょうか。それでは採決を取りたいと思います。中学校用教
科用図書につきまして、令和 6 年度は今申し上げました教科書を使っていくということで、採
択を行います。賛成の委員の皆さん、挙手をお願いいたします。

(挙手全員)

挙手全員でございます。よって、第 6 号議案は可決されました。以上をもちまして第 6 号議
案「令和 6 年度使用小学校及び中学校用教科用図書の採択」につきまして、終わりたいと思
います。続きまして前回会議以降の各課の報告に移りたいと思います。

【義務教育課長】

- ・義務教育学校開校準備委員会の進捗状況について

【生涯学習課長】

- ・生涯学習課に関する各事業について

【教育長】

ありがとうございました。他にございませんか。無いようでございますので、以上で本日
の議事はすべて終了いたしました。次回の 8 月教育委員会会議につきましては、8 月 21 日(月)午後
2 時半からということでご予定よろしくお願いをいたします。以上をもちまして令和 5 年度第 4
回豊能町教育委員会会議 7 月定例会を閉会いたします。どうも、ありがとうございました。

閉会 午後 3 時 10 分